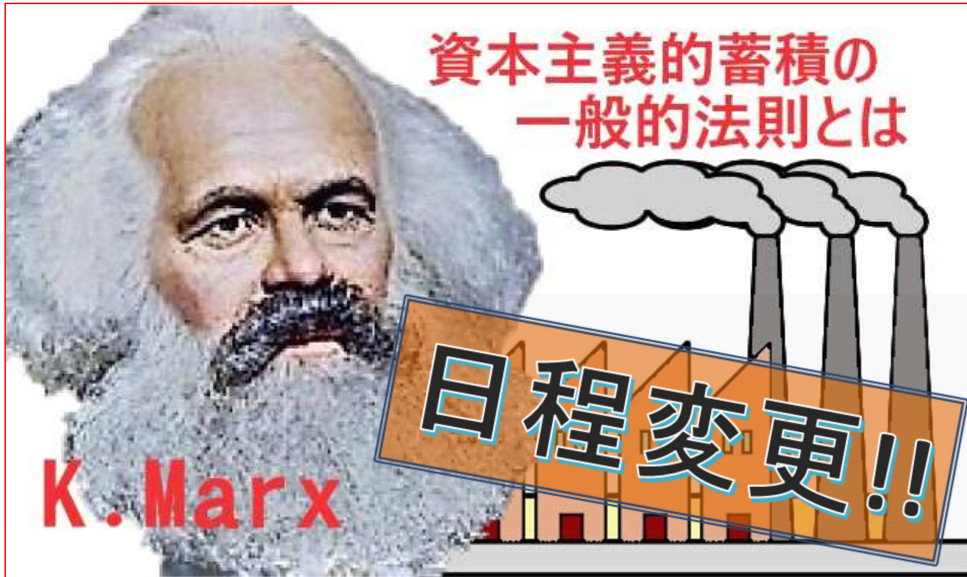


24年/2月学習会の案内(2) 第60回「資本論を読む会」

日程を変更します

(当初2月26日で案内)↓↓↓

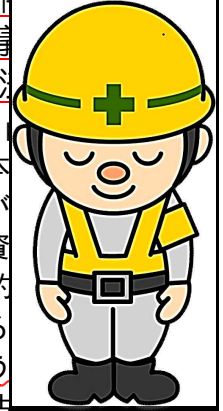


2月29日(木曜日)
に変更します

午後6時30分
Zoomで開催

次回「第4節 相
対的過剰人口の種
々の存在形態」

本主義
一般的法
庫(三)
資本
言葉が
章 資
一般



相対的過剰人口または産業予備軍の累進的生産」に入りました。読み進んでみる
りましたよ「(産業循環) 活況…繁忙…恐慌…沈滞…10年ごとの循環をなすという
19世紀資本主義では「恐慌は10年周期で起こる」というマルクスの予言にも似た古
ただし20世紀資本主義(帝国主義の時代)においては景気循環は長期化して、ひとたび恐慌が起こ
ると1929年世界恐慌のように激烈になったということはご承知の通りです。

今回の参加者は前回に続いて11名でした。今回の読書の要は、「資本蓄積の増大は有機的組成を
変化させるが、それは可変資本部分を犠牲にして不変資本部分を増加させ、この可変資本部分の
相対的減少が過剰な労働者人口を生産する。」「相対的過剰人口・産業予備軍の形成」「この産業予
備軍の形成という労働の需要供給法則の運動が資本の専制を完成する。」(資本主義的人口法則と
なる)……少し要約しすぎて、どっか間違ってるかもしれませんがご勘弁。

次回第4節は続きです。先読みすると「相対的過剰人口の3つの存在形態」を勉強するようです。
レポーターはKaiさん。よろしくお願いします。

終了後の「飲み会」新年会には7人が参加。皆さんお疲れで、11時頃には終わりました。

☆「資本論を読む会」の最初からの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/>「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

レポーターから -anak

第23篇第3節 相対的過剰人口または産業予備軍の累進的生産

①(過剰な労働者人口の生産)

・資本の蓄積は…可变的構成部分を犠牲にして不変的構成部分をたえず増加させる。有機的組成の変化は…
資本蓄積、社会的富の増大よりはるかに急速に進ずる。(それは)比例して増加するのではなく、累進的に減少する。
例-C:V=1;1, 2:1, 3:1 →1;1 1/3:2/3 1/4:3/4 ……(可変資本部分の相対的減少は)過剰な労働者人口を生産する

②(資本主義に特有な人口法則)

・労働者人口は、それ自身によって生産される資本蓄積とともに、相対的過剰化の手段を、ますます大量に生産する。

③(10年ごとの周期的景気循環)

・この過剰人口は、資本主義的生産様式の一存在条件となる、絶対に資本に属する産業予備軍を形成する。
・活況、繁忙、恐慌、沈滞…10年ごとの循環は、産業予備軍・過剰人口の不断の形成、吸収、再形成に基づく。
・経済学の皮相浅薄さは、産業循環の時期転換の単なる徴候にすぎない「信用の膨張と収縮」を、その原因と考える。

④(可変資本の増減と労働者の増減)

・可変資本の増大は、労働の増加の指標となるが、就業労働者の増加の指標とはならない。

⑤(資本の専制の確立)

・資本の蓄積が一方では労働に対する需要を増すとすれば、それは他方で、労働者の「遊離化」によってその供給を増す。
…失業者の圧力は、就業者により多くの労働の流動化を強制し、ある程度まで、労働の供給を労働者の供給から独立させる。
この基礎の上における労働の需要供給の法則の運動は、資本の専制を完成する。

